

ろいあ
ねい
Communication

第10号

い
2014

菊池有働病院



SUPERMARIO

勤を磨く

菊池有働病院 院長 大塚直尚

大学時代に東京に居た私は、熊本に帰るのに新幹線を使っていました。

広島駅に近づくと新幹線もゆっくり走り、景色が良く見えてきます。

すると、駅のそばには墓地がたくさんあり、とてつもなく墓石が密集しているのに気が付きました。「原爆で一時期にたくさんの方が亡くなったからだろう…」と、漠然と考えていました。

昭和62年の夏、まさに8月6日の広島を見てみようと思い立ちました。

前日の昼に入り、墓地を見て回りました。間近で見ると隣の墓石との間が殆どありません。予想通り「昭和20年8月6日〇〇〇」やその直後の日付が刻まれていました。翌朝早く宿を出て平和祈念式典会場に行ってみました。時の首相が来るとのことで、ものすごい警戒でした。乗り入れの車に向けて反体制派から罵声が浴びせられていましたが、式典は粛々と進行していました。しかし式典の列の後ろの方では、式典とは関係なくシュプレヒコールを上げたり、勝手に小集会を開いたり…、ばらばらで全く統制が取れていませんでした。原水禁と原水協の合同集会の会場にも行きました。進歩的な人たちが真面目に話を聞いていると想像していましたが、実際は私語が多くて、演者の話が聞こえませんでした。観ていると、生協などで動員されたいオバちゃんたちが入れ代わり立ち代わり来て、お喋りばかりしているのです。進歩的の女子大生もフツのオバちゃんになり、先生方の話よりも、子供の受験やこの後の観光が気になっているようでした。夕方には原爆ドームのわきで精霊流しをしていましたが、その祈りも、広島市民球場の巨人戦の歓声にかき消されていました。夜のニュースを観ました。ニュースでは式典や集会の一部を切り取って「式典は厳粛に行われました」「各集会も大勢の参加がありました」ということになり、私が観たものとは違う…感じがしました。

私は風評や噂を信じません。せいぜい気には掛ける程度です。基本的に自分で観て聴いて触れないと判断しません。ただこの時代は情報が多すぎて、全てにこれを貫くことは不可能です。しかし「本物を観て、聞いて、触れる…」、これによって初めて培われる目や勘みたいなものがあると考えています。おそらくそれは、新聞や本やコンピューターでは得られません。「医者が信用されなくなったのは、患者さんに触れなくなったからだ」とも言われますが、それは時代の先端を行く医学の世界でもこの「勤」が意外と大切であることを、一般の人たちがまだ知っているからだと思っています。



職員旅行にて、みんなでイカを食べました。

看護部長を拝任して思うこと

菊池有働病院 看護部長 河崎明法



昨年8月1日に看護部長の辞令をいただき、戸惑いとこれまで以上の責任の重さを感じながら無我夢中の日々を過ごしています。菊池有働病院に入職して30年が経ちました。その間、病院は大きく進化を遂げてきたように思います。看護においても、歴代の看護部長の努力により前進を続けてまいりました。私も、精神科看護の質を更に高められるよう、研修などを通して看護師個々の力を伸ばす教育を進めていく必要があると思っています。

現在、私は趣味でテニスをしています。自称「テニスの王子様」ならぬ「テニスのおじ様」ですが…。(笑) ダブルスの試合では、個々の技術のうえにお互いの役割を理解し、作戦を共有しないとポイントに繋がりません。“ペアを活かす”とは意見の違いを否定するのではなく、お互いの考えを受け入れ、逆にプラスにしていく事だと思っています。これは看護というチームでも同様、多くの素晴らしい意見や考えを持ったスタッフの個性を引き出し、チーム力を強化することが、よりよい看護の提供へつながると考えます。

今年は、精神保健福祉法改正に伴い精神障害者の地域生活への移行促進の策定や保護者制度の廃止、医療保護入院における入院手続きの見直しなどがあります。これからも、精神科看護の方向性をしっかり見極め「精神科看護は看護の本質」だと自負しながら、自分に何が出来るのかを皆様に教えられ、協力していただきながら業務に取り組んでいこうと思っています。

今後も皆様のご指導・ご支援をお願い致します。



ホームページをリニューアル!!

私たちのホームページは平成16年1月に初めて作成され、精神科病院である当病院の情報をできるだけ分かりやすく伝えることを目的に活動し、また相談業務窓口の一端として、地域の皆様からの受診や病気に対する不安や悩みなどの相談メールを受け付けてきました。

平成25年夏にはホームページを全面的にリニューアル!! トップページには当病院の行事や活動を紹介するコーナーが設けられており、日々新しい情報を掲載しています。その他、医師紹介や疾患別の情報ページなども新設しています。

また、リニューアルを機に「Facebook」も始めました!! ホームページのトップ画面から入ることもできます。Facebook限定の情報もアップしていますので、こちら合わせてご覧いただき、是非とも皆様の「👍いいね!」をお待ちしています。

ト ッ プ ペ ー ジ

みなさんこんな
お悩みありませんか?

診察

面接

相談

理由もなくイライラする

物音や話し声が気になる

アルコール、薬物などで
お困りの方やそのご家族

最近、物忘れがひどくなった

いつでもお気軽にご相談下さい。
こころの悩みや医療費等、福祉制度に関するご相談も
専門スタッフが受け付けます。プライバシーは厳守いたします。

夜、眠れない
夜中に何度も目を覚ます
寝つきが悪い

どうしても
やる気がでない

大塚院長のおちやめな一面!



一度開いてみてくださいネ!!

くまモンと一緒に劇をした
劇団「くらたけ」



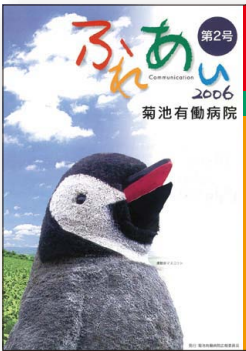
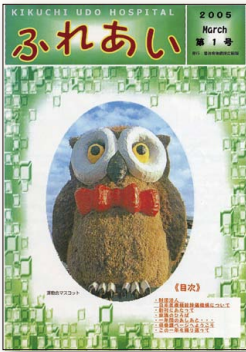
病院の歴史と共にあるマスコット

今回の機関誌で10号目の発行となります。そこで、バックナンバー一覧を掲載することになりました。この表紙に登場するマスコットについて紹介したいと思います。

当病院は、昭和36年3月16日に開院され、運動会でマスコットが登場したのは7年後の昭和43年でした。赤組・青組に分かれて、それぞれマスコットのできを競い合いながら製作していました。患者様と職員との共同作業のため、信頼関係も築かれてきたと思います。

当初は、縦4m×横3mもある大物のため、多大な時間と忍耐力が要求されたものでした。運動会終了後は、マスコットに「交通安全」のタスキをかけ、ドライバーへの注意・喚起を促したこともありました。そんなマスコットも今年で46年目を迎えるわけですが、一時期、縮小か中止の声もあがりました。しかし、「時代の流れや大変さは分かるが、古き中にも良きものもあり、先輩方から引き継いだ伝統でもある。当病院の伝統・文化はこれからも引き継いで欲しい」という病院の意向もあり、今日まで受け継がれてきました。

今では、このマスコットが当病院の歴史であり、伝統・文化だと言えと思っています。現在は地域の方にも話題となり、保育園やスーパーなどへ引き取られ、地域貢献に一翼を担っていると自負しています。



製作過程



栄養課ページへようこそ!

ライフラインが断たれた!?

当 病院で防災の日(9月1日)に、ライフラインが断たれ、厨房が全く機能しないという想定での訓練が初めてありました。栄養課では患者様や全職員を対象に非常食の提供を試みましたので、その時の様子をご紹介します。



今 回使用した非常食です。1缶を何人分に配給するのか一目で分かるように表示しました。備蓄庫内には通常3日分(約2,000食)の食糧をストックしています。また、缶切りやお玉、カセットコンロなども一緒に保管してあります。

食 事時には職員が状況や人数を把握し、非常食を備蓄庫から運び出しました。限られた職員で各部署の患者様分を人力で運ぶのは大変で、使い捨て食器の数も多く、また食糧の重さで運搬用ビニール袋が破れるなどのハプニングもありました。



職 員は各部署に非常食を持ち帰り、使い捨ての食器に盛付けました。事前に食器を用途別に分け、分かりやすく表示したり、また、一人分の量が決まっていたものの、少ない人数での慣れない配給はとても難しい作業でした。

皆 で冷たい非常食を食べながら、日頃の災害に対する思いや考え方を再認識し、防災についての色々な意見を交換しました。また、非常食に関する感想も聞かれ、有意義な訓練になったと思います。



実施後の感想としては、日中に行なわれたこともあり、環境的に恵まれ、また、想定できる下準備は行なっていたため、比較的スムーズに実施することが出来ました。もしも、夜間に災害が発生したらと思うと、とても想像がつかないくらいパニックになりそうです。今回の訓練を通して、備蓄品の保有数が一目でわかる資料の作成、大量のゴミの置き場を確保する必要があるなどの新たな課題も明確になりました。日頃から災害に対しての意識は持っていたものの、また再認識することができました。

これからも高い防災意識を持ち、この経験を実際の災害時に活かすことが出来たらと思います。(災害が起きないことを願うばかりです)